

# 令和4年度 県立太田第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像		グローバルな課題の解決に挑み、持続可能な社会づくりに貢献する起業家となる基礎を育む学校				
昨年度の成果と課題		重点項目		重点目標		達成状況
【成果】 ・探究的な学びを各教科において積極的に取り入れることができた。 ・生徒が自ら考え、判断し、実践していく力が向上している。 ・多くの経験をする中で、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が高まってきている。 ・学習支援ソフトやアプリを効果的に活用して教育活動を進めることができる。	【課題】 ・学習指導において、生徒の実態をしっかりと把握した上で実態に即した対応が必要である。 ・6年間を見通した教育活動を高校と連携して実践していく。 ・異学年との交流をさらに積極的に行い、主体性を育てていく。	学習習慣・基礎基本の定着の割合	学習理解に対応した習熟度別授業の割合	小テストや学習アプリを活用した学習理解度の把握と個に応じた指導を実践する。	学習到達度目標を明確にし、学習過程を工夫した習熟度別授業を実践する。	B
		コミュニケーションの場や体験的な学習を取り入れている割合	自分の考えを伝えることができる生徒の割合	「探究プロジェクト」や「中高連携活動」を活用し、他校の生徒や高校生・異学年の生徒たちとの意見交換による課題解決を体験する。	様々な活動において、生徒同士で話す・伝える場を設定し、自分の考えを伝えることができる生徒の割合85%を目指す。	A
		探究的な学びを取り入れている割合	他の教員の授業から、気づきや学びを得た教員ののべ人数 全国規模のイノベーションコンテスト参加数 生徒の授業満足度 (アンケート)	すべての授業において、年間を通して探究的な視点を取り入れた授業を実践する。	各教員が毎月1回以上は、他の教員から気づき・学びを得ることを目指す。	A
		授業における教員のICT活用割合	実践的な英語力を身に付けている生徒の割合	ICTを意図的・効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。	中学3年終了時点で、英検準2級相当の生徒の割合50%を目指す。	A
		授業や体験的活動の中で、国際教育を取り入れた割合	1か月平均超過勤務時間数	各学年の体験活動に取り入れ、段階的に実践していく活動を通して、英語力とコミュニケーション能力の向上を図り、異文化理解を深める。	1か月平均超過勤務時間数を45時間以下にする。	B
1か月平均超過勤務時間数					B	
評価項目	具体的目標		具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	1 学習指導の技術を向上させ、主体的・対話的で深い学びを実現するとともに確かな学力の定着を図る。		(1)学習意欲を喚起し、対話的でわかりやすい授業の実践に努める。		A	・生徒の実態や個人差に応じた指導の工夫をしていく。 ・教員のICT活用指導力を高めていく。
	2 ICT機器を有効に活用して個に応じた深い学びの実現を図る。		(2)自己管理能力を高め、家庭での学習時間を確保させ、基礎学力の向上と定着を図る。		B	
	3 自主的・自律的な生活態度を育成し、学習習慣の確立を図る。		(3)ICT機器を活用し、学習の成果を可視化するとともに、個に応じた指導を展開する。		A	
教科	国語	1 言語活動を充実させ、言葉を正しく理解し表現する力の育成を図る。		(4)生徒理解のための学習状況調査を実施し、課題を分析・検討して、具体的対策を講じていく。		B
		2 読解力・表現力向上を目指し、授業の改善に努める。		(1)言語活動を通して、主体的・対話的な授業の実践に努め、根拠や理由を明確にして互いの考えを伝え合う力を育成する。		A
		3 読書活動を推進し、語彙力を高める。		(2)ICTを活用し、情報を収集・整理したり自分の考えをわかりやすく表現したりする力を育成する。		A
	社会	1 学習意欲を喚起し、基礎・基本の定着を図る授業改善に努める。		(3)中高の連携を図り、授業の相互参観や合同授業を行い、系統的な学びの研究と実践をする。		B
		2 社会的な思考力・判断力・表現力を育てるための指導に努める。		(4)各種研修会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。		B
	数学	1 個に応じた指導に努める。		(5)知識や情報を得たり、考えを広げたりするために読書活動の充実を図る。		B
		2 基礎力の向上を図るとともに、応用力の向上を図る。		(1)ICTを積極的に活用し、家庭学習教材を準備して、各自で家庭学習を進められるようにする。		A
		1 基礎・基本の確実な定着を目指す。		(2)小テスト等を実施し、単元ごとの習得すべき力を明確にして学習内容の確実な習得を図る。		B
	理科	2 探究の過程を重視し、科学的思考力・表現力の育成を目指す。		(3)グループ・ワークや調べ学習を通して、主体的・対話的な問題解決的学習を推進する。		C
3 理科がわかる喜びを実感する授業に努める。		(1)小テスト等を利用して学習の理解度を把握し、きめ細かな指導を推進する。		A		
1 基礎・基本の確実な定着を目指す。		(2)少人数指導・習熟度別指導による生徒の実態やニーズに応じた指導を行う。		A		
2 探究の過程を重視し、科学的思考力・表現力の育成を目指す。		(3)ICT機器を活用した個別指導の場を設定し、学習内容の定着を図る。		B		
3 理科がわかる喜びを実感する授業に努める。		(4)問題演習の時間を設け、基礎計算力の定着を図る。		B		
1 基礎・基本の確実な定着を目指す。		(5)生徒の学力に応じて授業内容を精選し、発展的な内容を扱う。		B		
2 探究の過程を重視し、科学的思考力・表現力の育成を目指す。		(1)ICT機器を有効に活用し、学習意欲を喚起する授業の実践に努める。		A		
3 理科がわかる喜びを実感する授業に努める。		(2)わかりやすい授業を実施し、基礎学力の向上を図る。		A		
		(3)探究の過程を重視した指導計画の立案に努める。		B		
		(4)実験・観察の結果を蓄積し、学習の振り返りを重視した授業実践に努める。		B		

別紙様式2 (中)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科	保体	1 運動技能を高め、規律ある行動や態度を育成し、基本的な生活習慣の確立を目指す。	(1)整列、挨拶、時間、服装等を守らせた上で、体力の向上並びに各種の運動技能を高めさせる。	A	B	・体力の向上と技能の習得を図る。 ・運動やスポーツを自ら楽しむ態度の育成する。
		2 保健の知識を身に付けさせ、生活に生かせるようにする。	(2)健康・安全について理解させ、生涯を通じて健康を管理・改善できるようにさせる。	B		
	美術・音楽	1 表現力の向上を図る。	(1)個別指導を丹念に行い、表現力の基礎を向上させる。	B	B	・生徒の意欲を高め、表現力を養う指導法をさらに工夫していく必要がある。
			(2)さまざまな作例を取り上げ、幅広い表現活動を促す。	A		
		2 鑑賞の基礎的能力を深める。	(3)生徒の素直な見方を尊重しつつ、制作意図や表現の工夫点にも気づかせる。	A		
			(4)互いの作品を鑑賞するとともに、さまざまな展覧会の鑑賞も促す。	B		
		3 主体的・対話的な授業への取組に努める。	(5)生徒が興味をもつような題材を設定して、意欲をもって制作活動ができるようにする。	B		
			(6)自分の表現のテーマ(主題)を明確化させていき、それにふさわしい表現を工夫させる。	B		
	英語	1 基礎・基本の確実な定着に努める。	(1)到達目標を意識した指導を行い、内容の定着および応用力の育成を図り、適切な評価を行う。	A	A	・学力差への適切な対応をしていく。 ・探究活動との教科横断学習をさらに充実させる。 ・海外研修や国内語学研修に向けて ALT 活用による学習の充実を図る。
			(2)少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題をふまえ、指導方法の改善策を検討する。	A		
		2 家庭での学習習慣の定着に努める。	(3)具体的な課題を設定し、学習した語彙、表現などを実際に活用する言語活動を充実させる。	A		
			(4)課題やノートを定期的点検し、生徒一人一人の実態に即したアドバイスをしながら、家庭学習の習慣をつけさせる。	B		
		3 生徒の総合的な英語の能力を伸ばす授業の改善に努める。	(5)個々の生徒の、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、ALT との TT 授業を効果的に展開する。	A		
			(6)授業と評価の一体化を図り、4技能5領域をバランスよく育成する。	B		
			(7)表現力を高めるパフォーマンステストを行い、観点別評価の研究を深める。	A		
(8)ICT 機器を活用し、実際に英語を活用する場面や、異文化理解を進める機会を設定する。			A			
技術・家庭	1 技術・家庭に関する知識や技能が身に付くように努める。	(1)実験・実習の形態を工夫し、生活に必要な基礎的・基本的な知識の習得を目指す。	B	B	・生徒の実態に合わせた実習内容や学習形態の工夫が必要である。 ・中高での学習内容の関連を意識した指導の仕方を工夫していく。	
		(2)疑似体験などの体験学習を多く取り入れ、学習内容の理解・関心が深まるよう努める。	B			
		(3)個に応じたきめ細かな指導を行い、さらなる学習意欲の向上を図る。	B			
	2 生活の課題を見出し、それを改善しようとする態度を育てる。	(4)生活ハンドブックの利用し、家庭に関する興味・関心を深めさせる。	B			
		(5)ホームプロジェクトを通して身近な生活に課題を見つけ、主体的に解決する方法を考えさせる。	B			
		(6)各種研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。	B			
教務部	教務	1 新学習指導要領を踏まえた特色ある教育課程の編成と運営を図る。	(1)中高一貫6年間を見通した教育課程の工夫・改善に努める。	A	B	・55分カセットの週33単位で教育課程を編成。新年度は、実施状況の把握が重要。 ・抜本的な学校行事の見直しを行い、異年齢交流を図ることで、魅力的な学校行事にすることが必要。 ・中・高合同で中高一貫校としての魅力をアピールできる機会が少ない。小学生対象学校説明会であっても、高校についての説明時間を確保し、志願者増につなげることが重要。
		2 特色ある学校行事の推進を図る。	(2)少人数指導・習熟度別授業・TT等の個に応じた指導のシステムの充実を図る。	A		
		3 授業時間の確保に努める。	(3)高校と連携し、異年齢交流を生かした学校行事の企画・運営に努める。	B		
			(4)遠隔教育システムを有効活用した、他校との交流を推進する。	B		
	3 広報活動の充実を図る。	(5)出張・年休等における授業の確保に努める。	B			
		(6)学校行事等の能率的運営を図る。	B			
		(7)学校説明会の機会を増やし、小・中学校及び地域への広報活動に努める。	A			
		(8)併設型中高一貫校の説明・広報を進め、生徒の確保を図る。	A			
渉外広報部	1 創意工夫ある広報活動の推進を図る。	(1)学校を紹介するために、スクールガイド、ポスター、リーフレット、チラシ等を作成し、幅広い広報活動を進める。	A	B	・昨年度より学校公開の機会があり、受検生へのアピールはできた。学校公開時に生徒主体の企画などを取り入れるとさらに学校の魅力を発信できると感じた。 ・学校にチラシやスクールガイド、HPを活用して、児童一人ひとりに本校の良さを知ってもらえるよう方策を検討したい。	
		2 各分掌との連携を図り、学校PRに努める。	(2)教務部と連携し、学校説明会の企画・運営に携わり、本校のよさや特徴を周知する取組を積極的に進める。			B
	3 生徒の主体的な活動を取り入れた広報活動を進める。		(3)ICT推進部と連携し、学校の様子や生徒の活動の様子などPRに効果的な素材を見つけ、HP等で効果的に発信する。			B
		(4)生徒とともに創る活動を取り入れ、生徒の思いや成長、課題など、さまざまな視点からアイデアを生かした広報活動の充実を図る。	B			

別紙様式2 (中)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
探究推進部	探究活動	1 探究活動の充実を図る。	(1)各教科において「探究的な学び」を推進する。	B	A ・中高の交流をさらに深める ・6年間を見通した学びの実現のために、発達段階に応じた身に付けるべき力を共有する。
			(2)生徒が主体的、創造的、協動的に取り組む活動をすすめる。	A	
		2 中高連携での取組の充実を図る。	(3)中高の交流を取り入れた活動を推進する。	B	
			(4)成果発表の機会(探究活動中間発表会や中高合同成果発表会等)を設け、互いのよさを共有する。	A	
		3 地域や他校との関わりを大切に活動を進める。	(5)地域探究セミナーやフィールドワーク、出前講座などを積極的に実施し、主体的な探究活動の推進に努める。	A	
			(6)他校との連携プロジェクトにおける意見交換や交流などを通して、一人一人の深い学びの実現を図る。	A	
キャリアサポート部	進路指導	1 6年間を見通した計画的・系統的な進路指導に努める。	(1)高校と連携しながら、共通する進路関連行事を推進する。	B	B ・中高連携の進路行事の見直しをする。 ・ゲストティーチャーとして社会人や大学生を活用するにあたり、探究推進部と引き続き連携を取る。 ・外部模試の分析とフィードバックの効果的な方法を検討する。
		2 適切な進路情報を提供し、進路意識の高揚を図る。	(2)HR 進路講演会、大学見学、ゲストティーチャーの活用などによる進路意識の高揚を図る。	A	
			(3)オンラインサービス等を利用したデータの提供・分析等にあたり、各学年の指導に合った適切な資料の提供を図る。	B	
			(4)保護者面談等で適切な進路情報の提供をする。	B	
		3 各学年及び各教科・領域と連携を図り、生徒の自己実現の支援に努める。	(5)外部模試を活用した生徒分析と進路指導との有機的な連携を図る。	A	
			(6)eポートフォリオを活用した情報の蓄積と自己実現への効果的な支援に努める。	A	
			(7)定期的な個別面談により、生徒の願いをとらえ、全職員でその実現のための支援をする。	B	
特別活動部	特別活動	1 生き生きとした中学校生活の確立を図る。	(1)HR や学校行事を通して生徒の主体的行動を支援し、自主性を育てる機会をつくる。	A	B ・キャリアパスポートの活用を推進する。 ・生徒がより主体となる行事の運営方法を工夫する。 ・高校との連携強化を図る。 ・委員会活動を活性化していく。
		2 生徒会活動の活性化に努める。	(2)キャリアパスポートを活用し、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題について考えることができるように自主的・自発的な活動を進める。	B	
		3 ホームルーム活動の活性化と内容の充実を図る。	(3)生徒会が学校行事の企画・運営し、地域との連携を図りながら、生徒が主体の行事になるよう支援する。	B	
		4 部活動の充実と発展に努める。	(4)HR 年間計画をもとに、自主的・自律的な活動が充実して行えるよう支援する。	B	
		5 中高一貫教育校としての活動の充実を図る。	(5)部活動の活性化を促進するとともに、生徒の主体性を尊重した運営ができるよう支援する。	B	
	(6)各種行事をはじめ委員会や部活動、生徒会活動などを通じて高校と連携を図り、中高一貫教育校としての活動を充実させる。	B			
ウェルネス部	保健厚生	1 生徒・教職員の心身の健康の増進に努める。	(1)生徒が主体的に体調管理をできる力を育てる。	B	B ・学校環境衛生検査を実施していく。 ・相談室の環境整備をする。
			(2)生徒の健康安全を重視し学習環境の安全点検を行い、事故防止及び保健室の効果的な運営に努める。	B	
			(3)性教育等、各種健康教育を実施し、健全な健康観をつくる。	A	
		2 学習環境の整備に努める。	(4)清掃用具の管理に努め、全職員・全生徒による清掃を徹底し、衛生環境の改善を図る。	B	
			(5)冷暖房器具の安全管理及び生徒の健康管理に努める。	B	
		3 防火安全管理を徹底する。	(6)綿密な計画を立て、生徒が安全な行動をとれるように指導する。	B	
			(7)より実践的な避難訓練の方法を工夫し、生徒の危機回避能力を高める。	B	
	生徒指導	1 基本的な生活習慣の確立を図る。	(1)あいさつの励行と丁寧な言葉遣いを大切にコミュニケーション能力の育成に努める。	A	B ・友人関係の小さなトラブル等多く、心の行き違いや言葉遣いや伝え方など、相手の気持ちの理解に気づける生徒の育成に努めていきたい。引き続き各学年と連絡を密にして、早期に対応していく。  ・校内でのスマホ使用のマナーについて、規律ある使用方法について生徒自身が考える機会を持ち、SNSでのトラブルの無いように講演会等実施していく。
		2 交通安全指導の強化に努める。	(2)物品への記名や管理意識の高揚を促し、自己管理能力の育成に努める。	B	
			(3)携帯電話の使用について、保護者と連携しながらマナーや適切な使用について徹底する。また、外部講師を活用した講演会等を実施し、安全な使用の仕方について意識かを図る。	B	
	3 教育相談の充実を図る。	(4)定期的に全職員での立哨指導を実施し、交通ルールを遵守した登下校を身に付けさせる。	B		
		(5)自転車の定期点検を実施し、安全な運転と保険の加入を推進する。	A		
		(6)複数担任制を生かした教育相談体制を整え、生徒の精神面のサポートを丁寧に行う。	B		
		(7)学校不応や友人関係の悩みなど、さまざまなケースの状況を把握し、スクールカウンセラーとの連携を図り、早期発見・早期解決を図る。	A		
		(8)生徒指導部委員会を開き、情報交換を密にして全職員で支援にあたる体制を整える。	A		

別紙様式2 (中)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
ICT推進部	情報	1 校内LANの構築とその利用を図るとともにセキュリティの確保に努める。	(1)授業・HR単位でのコンピュータ室・ICT機器利用の支援を行うとともに、情報モラルの徹底や情セキュリティへの意識とスキルの向上を図る。	B	B ・授業で使用するICTのノウハウの共有を図る。 ・HP更新頻度を上げる。
		2 ホームページの更新及び内容の充実を図り、活気ある本校の現状を発信する。	(2)渉外広報部や高校と連携しながら、定期的なホームページの更新内容の充実を努める。	B	
		3 ICT機器の維持・管理を徹底する。	(3)学校事務やICT支援員と連携し、ICT機器の適切な維持・管理に努める。	B	
		4 校内研修会を通して、知識・技術の支援を行う。	(4)校内研修会の企画・運営にあたる。	C	
ICT推進部	図書	1 図書館資料の充実を図る。	(1)学習活動や読書活動に活用できる図書を定期的に選定する。 (2)蔵書整理の基準により、生徒の利用を促進する資料の整理・分類を継続する。	A B	B ・図書資料を有効活用(各教科との連携)する。 ・探究活動における図書資料活用を促進する。 ・読書の時間や読書の質の確保に努める。 ・読書行事を更に発展させる。
		2 学習・情報センターとしての図書館の利用促進に努める。	(3)書架の配架の工夫等により、様々な利用形態に対応できる図書館の環境整備に努める。 (4)各教科・各分掌との連携により、「学習・情報センター」としての機能を向上させる。	B B	
		3 図書委員会の活動の充実を図る。	(5)「ビブリオバトル」や「読書月間」の実施など、図書委員の主体的な活動を促進する。 (6)「図書館便り」「図書館報」等の活動を通して、読書活動を推進する。	A A	
				A	
第1学年	1 中学生としての自覚をもたせ、基本的な生活習慣を定着させるとともに、何事にも主体的に取り組み、責任ある言動ができる態度を育てる。	(1)家庭との連携や教育相談を推進し、楽しく充実した学校生活の実現に努める。	A	B ・集団の中で自己有用感を高められるような声掛けや活動を行う。 ・遅刻、欠席が多い生徒への個別支援、保護者との連携、各機関との連携を進める。 ・学習に対するモチベーションを高め、主体的・自主的に学習に取り組む集団を育成する。 ・次年度へ向けての習熟度別学習クラス分け、学習進度、授業内容を再検討する。	
		(2)生徒一人一人の役割を明確にし、責任をもって活動できるようにするとともに、達成感や自己有用感を高められる支援に努める。	B		
		(3)複数担任制のメリットを生かし、クラスを2つに分け、人間関係に配慮したHR運営ができるようにする。	A		
		(4)普段の生活の中で、時間の遵守と挨拶の励行に努める。	A		
	2 主体的・自主的学習態度の育成と基礎学力の向上を図るとともに、将来への夢や希望をもたせる。	(5)少人数学習、習熟度別学習、TTを導入し、個に応じた指導を徹底する。	B		
		(6)ICTによる学習支援ソフト等を効果的に活用し、家庭学習の習慣化や弱点の強化を図る。	B		
		(7)eポートフォリオを活用し、学習の蓄積を図ることにより、計画的な自主学習が進められるよう努める。	B		
	3 部活動や学校行事、特別活動等において、主体的に活動しようとする態度を育てる。	(8)部活動・学校行事・特別活動等に意欲的・主体的・自律的に活動できるよう支援する。	B		
		(9)集団への帰属意識を高め一人一人が自己有用感をもちながら意欲的に活動できるよう支援する。	A		
		(10)地域素材を活用した探究活動の充実を努める。	A		
		(11)英語科指導や他の教科、領域、特別活動等の場で英語を使った会話を日常的に行う。	B		
第2学年	1 集団の形成者としての自覚をもたせ、基本的な生活習慣を定着させるとともに、何事にも主体的に取り組み、責任ある言動ができる態度を育てる。	(1)家庭との連携や教育相談を推進し、教師と生徒、生徒相互のよりよい人間関係を築き、楽しく充実した学校生活の実現に努める。	A	B ・海外研修へ向けて語学力の向上を図る。 ・学力の向上を図るために、学習習慣の定着と、学力推移調査を分析するなどして弱点の克服を図る。 ・5校連携活動へ向けた計画的な準備と職員間の連携の強化を図る。 ・不登校・別室登校の生徒・保護者に対して、関係職員中心に連携を強化し適切に対応する。	
		(2)生徒主体の活動の場を設け、生徒一人一人の個性の伸長と自己有用感を高める支援に努める。	B		
		(3)複数担任制を生かした個を大切にす支援を継続的にを行い、生徒が主体的に活躍できるHR運営をする。	A		
		(4)学校生活の中で、時間の遵守と挨拶の励行に努める。また、当番活動や委員会活動を通して、集団の一員としての責任感や協働する力を育む。	B		
	2 主体的に学び、それを生かそうとする態度を育成するとともに生きて働く知識・技能の習得を図る。	(5)少人数学習、習熟度別学習、TTを導入し、個に応じた指導を徹底する。	A		
		(6)ICTによる学習支援ソフト等を、目的をもって効果的に活用し、個に応じた学習や学びの共有化を図る。	A		
		(7)eポートフォリオを活用し、学習の蓄積を図ることにより、計画的な自主学習が進められるよう努める。	B		
	3 部活動や学校行事、生徒会活動において、主体的に活動しようとする態度を育てる。	(8)部活動・学校行事・特別活動等に自主的・実践的に参画できるようにする。	A		
		(9)様々な集団で協働する体験を通して、一人一人が自己有用感を高めながら自己実現を図ることができるよう支援する。	B		
		(10)職業調べや職場体験を通して、自己のキャリア形成を図る。	A		
		(11)教科横断的な学習を行い、国際理解を深め、外国語での会話の向上を図る。	B		

別紙様式2 (中)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第3学年	1 豊かな人間性と自主性・自立性・自発性の育成に努め、主体的に取り組む態度と他者との協働により創造的に解決していく力を育てる。	(1)家庭との連携を密にし、教育相談を効果的に取り入れながら生徒との信頼関係を築き、一人一人の実態に合った支援をしながら、楽しく充実した学校生活の実現に努める。	A	A ・不登校生徒への支援の充実を図る必要がある。SC、SSWとの連携を図り、生徒、保護者両方の支援にあたったが、生徒の改善には至らなかった。未然防止も含め、生徒一人一人の思いに寄り添った指導の重要性を再確認していく。 ・少人数指導、個別学習の充実を目指した。個人差が大きく現れる教科、英語や数学において、個に応じた指導の徹底を目指した。基礎基本の確実な定着を多くの生徒で実現できた。しかしながら、個人差が大きく、個別指導でも対応が困難な状況も見られた。数学の先取り学習の在り方について検討が必要になってくると思われる。 ・高校への進学を意識した学習指導の必要性を感じた。高校の学習へのスムーズな接続の在り方について検討していく必要がある。
		(2)生徒の思いを大切に、努力や活躍を認める声かけをして、自信をもって取り組ませながら、自己有用感を高める支援に努める。	A	
		(3)複数担任制を生かし生徒の実態に応じた支援を継続的に行い、生徒が自分のよさを生かしながら、主体的に活躍できるHR運営をする。	A	
		(4)学校生活の中で、時間の遵守と挨拶の励行に努める。また、様々な活動を通して、話す・伝える力を高め互いを尊重しながら協力・協働する力を育む。	B	
	2 探究を軸とした創造的な学びの実現を図り、自ら課題を発見し解決していく力を育てる。	(5)少人数学習、習熟度別学習、TTを導入し、個に応じた指導を徹底するとともに、探究を軸とした学びのスタイルの確立に努める。	B	
		(6)ICTによる学習支援ソフト等を、目的をもって効果的に活用し、個に応じた学習や学びの共有化を図る。	A	
		(7)eポートフォリオを活用し、学習の蓄積を図ることにより、計画的な自主学習が進められるよう努める。	A	
	3 部活動や学校行事、生徒会活動において、主体的に活動しようとする態度を育てる。 4 多様な価値観に触れながら、グローバル社会で活躍するための資質・能力を育成する。	(8)部活動・学校行事・特別活動等に積極的・主体的に参画できるようにする。	B	
		(9)様々な集団で協働する体験を通して、一人一人が自己有用感を高めながら自己実現を図ることができるよう支援する。	A	
		(10)実践的・体験的な活動を通して、今後の自分を見つめ、自己のキャリア形成を図る。	A	
		(11)教科横断的な学習を行い、国際理解を深め、外国語での会話の向上を図る。	A	

※ 評価規準： A 十分達成できた B おおむね達成できた C 不十分である